# 新　聞　に　つ　い　て

## －よりよく新聞を読むために－

44期生

### Ⅰ　テーマ設定の理由

現在、ほとんどの人が新聞を読んでいると思う。ではどうして新聞がこんな多くの人に読まれているのだろうか？それを少しでも知るために、また、私がいつも読んでいる以外の新聞も読んでみたいと思ったので、このテーマを選んだ。

### Ⅱ　研究方法

(1)　資料を集める

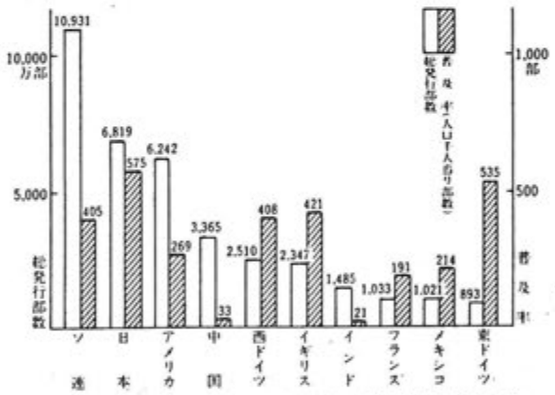
- 読売新聞・朝日新聞・毎日新聞の７月15日～７月21日までの１週間分を集める。
- 読売新聞・朝日新聞・毎日新聞のそれぞれの新聞社にパンフレットを送ってもらう。
- 文献をさがす

(2)　読売・朝日・毎日の３つの新聞のちがいを調べる。

### Ⅲ　研究内容

1　日本の新聞について

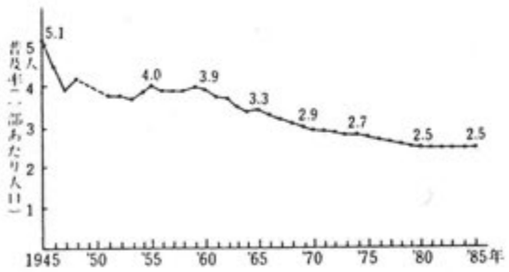
日本は今日、世界第１の新聞大国である。それは図１を見てもわかると思うが、普及率は世界第１位、総発行部数は世界第２位となっている。また、総発行部数も、世界第１位であるソ連の巨大な党や政府の機関紙を除けば、自由主義国の中では日本が第１位であるといえるだろう。




▲図１　上位10ケ国の新聞発行部数ち普及率

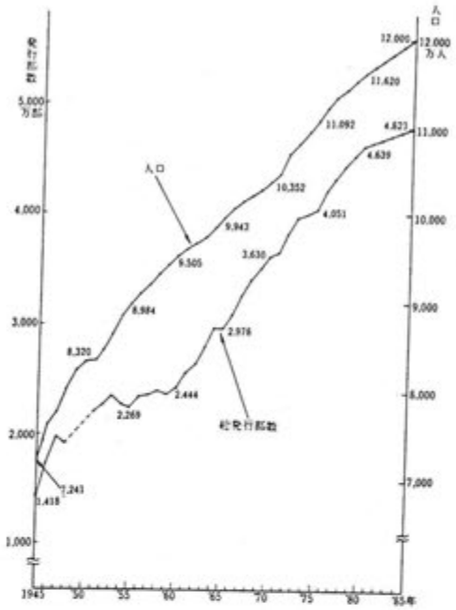
では、いつごろから日本ではこのように多くの人が新聞を読むようになったのだろうか。それは、戦後の1945年ごろからである。そのころから日本は、急速に総発行部数・普及率がのびてきたのである。

図３の新聞発行部数と人口の変遷では総発行部数は人口増のあとを追うようにして伸びていることがわかる。しかも図３の新聞普及率の変化を見ると、1945年には5.11人当たりに１部であったものが1985年には2.49人当たりに１部となって




▲図２　新聞普及率の変遷

おり、人口の伸びを上回る成長を続けてきたことが明らかである。現在新聞は家庭単位で読まれているということを考えると、普及率はかなり限界に近いが、発行部数は今後も人口の増化とともに伸び続けると考えられている。




▲図3　新聞発行部数と人口の変遷

2　新聞の種類について

ひと口に新聞といっても、新聞にはいろいろな種類のものがある。次にあげるのはその主なものである。

(1)　一般紙　多方面の記事をバランスをとって編集している新聞。

- 全国紙－ほぼ全国に普及し、発行部数も200万部をこえる一般紙
- ブロック紙－数県のまとまったブロックをカバーしていて、発行部数は100万部ぐらいに達する一般紙
- 県紙－1つの県ないし隣接県までを対象とし、発行部数は20万部ぐらいの一般紙

(2)　スポーツ紙　スポーツを中心として、芸能・ギャンブル・レジャーなどを扱う娯楽指向の新聞

(3)　専門紙　各専門分野に関心のある人や企業向けに業界情報を提供する新聞

3　読売新聞・朝日新聞・毎日新聞のちがい

日本の新聞の総発行部数は5000万部ぐらいであるが、その約半分を全国紙が占めている。その全国紙の中で大半を占めている、読売・朝日・毎日の3社の新聞についてそのちがいを調べることにした。

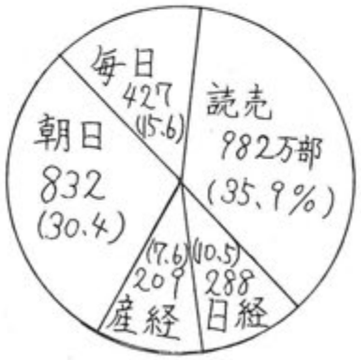
(1)　総発行部数のちがい

総発行部数は、

- 読売－928万部
- 朝日－832万部
- 毎日－427万部　である。読売新聞の982万部というのは、世界最大の総発行部数である。

(2)　ページ数のちがい

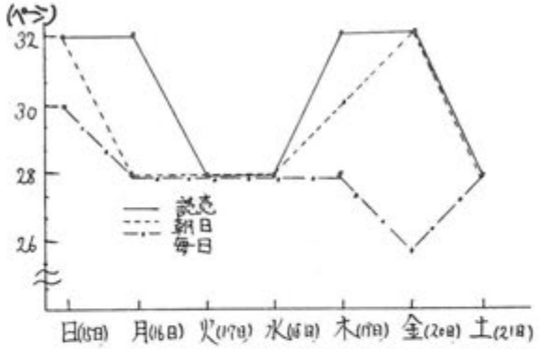
それぞれの7月15日～7月21日までの新聞のページ数を調べた。




▲図4　全国紙のうち分け

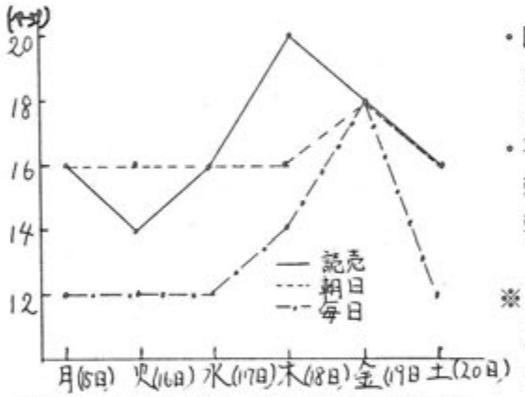


▼図5　1週間のページ数の変化（朝刊）




▼図7　平均ページ数

| | 読売 | 朝日 | 毎日 |
|---|---|---|---|
| 朝刊の平均ページ数 | 30.3ページ | 29.4ページ | 28ページ |
| 夕刊の平均ページ数 | 16.7ページ | 16.3ページ | 13.3ページ |
| 朝刊と夕刊の合計平均ページ数 | 24ページ | 23.4ページ | 21.2ページ |




▲図6　1週間のページ数の変化（夕刊）

◎わかったこと

- 図5の朝刊のページ数の変化では、日曜日の新聞のページ数が、どの新聞も1番多くなっている。
- 図6の夕刊のページ数の変化では、だいたい木曜日と金曜日ごとのページ数が、どの新聞も多くなっている。
- 平均ページ数は、朝刊・夕刊ともに読売新聞が一番多く、次いで朝日新聞・毎日新聞の順になっている。

※　このデータはあくまでも7月15日～7月21までの1週間分のものなので、はっきりしたデータとはいえない。

(3)　欄（面）の種類（朝刊のみ）のちがい

読売新聞には「社会面」・「スポーツ面」・「一面記事」・「地域ニュース面」・「国際面」・「経済面」・「内政・総合面」・「ラジオ・囲碁・将棋欄」「投書欄」・「読書欄」・「商況欄」・「解説欄」・「家庭とくらし欄」・「テレビ欄」・「広告面」などがあった。

朝日新聞には「社会面」・「スポーツ面」・「一面記事」・「大阪欄」・「第2大阪欄」・「国際面」・「経済面」・「総合面」・「テレビ・ラジオ欄」・「読書欄」・「投書欄」・「広告面」などがあった。

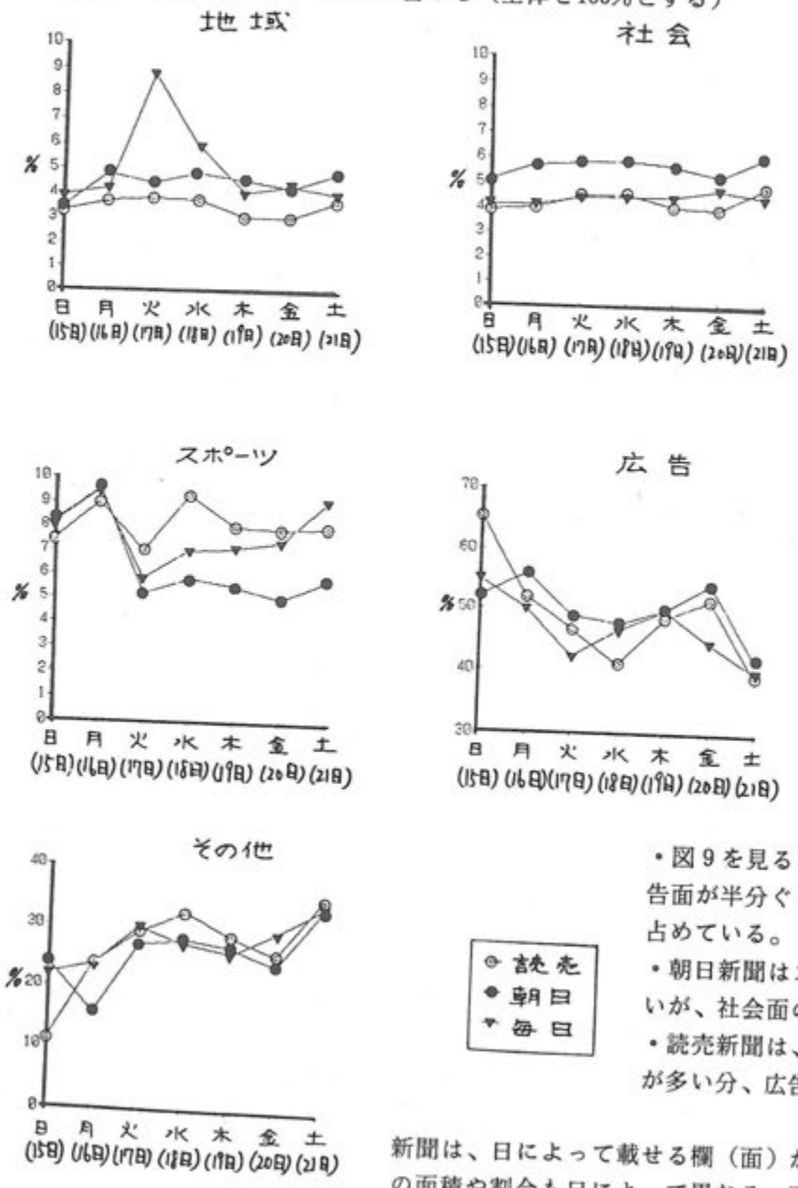
毎日新聞には「社会面」・「スポーツ面」・「一面記事」・「大阪欄」・「近畿欄」・「国際面」・「経済面」・「内政欄」・「総合面」・「社説欄」・「北摂面」・「投書欄」・「テレビ・ラジオ欄」・「広告面」などがあった。

※ここにあげた欄（面）は、毎日載っているわけではなく、日によって載せている欄（面）はちがう。

(4) 欄（面）ごとの面積・割合のちがい

次に(3)で求めた欄（面）を、「社会面」・「スポーツ面」・「地域面」・「テレビラジオ欄」・「投書欄」・「社説欄」・「広告面」・「一面記事」・「その他」に分類し、その欄を掲載している面積と、割合を求めた。

▼図８　１週間の各欄（面）を占める（全体を100％とする）




※図８は１週間の割合の変化の大きかったものだけをグラフに表した。

◎わかったこと

・どの新聞も、17日の地域面で毎日新聞がとびぬけて多い割合を占めているほかは、だいたい同じような変化のしかたをしているということが、図８を見てわかる。

・スポーツ面はどの新聞も、17日(火)が少なく、16日(月)が多い割合を占めている。

・図９を見ると、どの新聞も広告面が半分ぐらいと高い割合を占めている。

・朝日新聞はスポーツ面が少ないが、社会面の割合は多い。

・読売新聞は、全体のページ数が多い分、広告面の割合が多い。

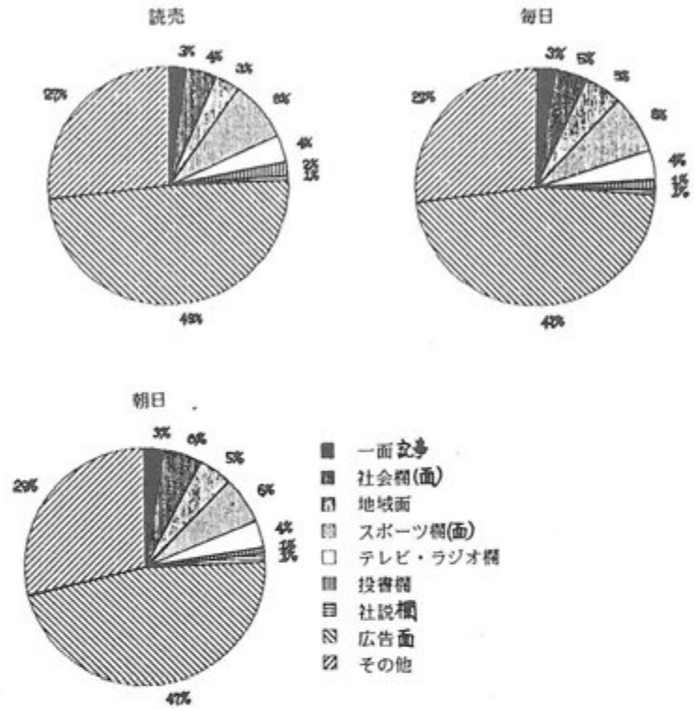
新聞は、日によって載せる欄（面）がちがい、またその面積や割合も日によって異なる。面積や割合の変化には、広告を依頼される量などにも影響されている。



(5)　１つの記事のとりあげ方のちがい

まず、フィリピン大地震・ホテル阪神発ぼう事件・校門圧死事件について、面積のちがい・見出しのちがい・意見の載せ方のちがいを調べた。

▼図９　１週間の平均新聞まうち分け




①載せている面積のちがい

◦フィリピン大地震
- 読売－4031㎠
- 朝日－3950㎠
- 毎日－2479㎠

◦ホテル阪神発ぼう事件
- 読売－977㎠
- 朝日－631㎠
- 毎日－779㎠

◦校門圧死事件
- 読売－2255㎠
- 朝日－3017㎠
- 毎日－2768㎠

②見出しのちがい

◦フィリピン大地震
- 読売－比で大地震、死者80人起す・比の地震「お母さん」叫び声　など
- 朝日－崩れるビル、降るガラス・がれきの下、懸命の救助　など
- 毎日－ビルからガラスの雨・恐怖の脱出　など

◦ホテル阪神発ぼう事件
- 読売－無法乱射、ホテル騒然・「花博気分台なし」　など
- 朝日－大阪怖い、無法の銃弾・「ドアを間違えれば…」など
- 毎日－宿泊客に恐怖の銃声・もし部屋間違えたら…　など

※校門圧死事件は省く。

③意見の載せ方のちがい（校門圧死事件のみ）

どの新聞も、学校側に賛成の意見と、生徒側に賛成の意見が載っていた。これは、もし片方の意見しか載せなくて、読者がかたよった意見をもってしまうのを防ぐためだと思う。

## Ⅳ　結論（まとめ）

これまで新聞について調べてきて、新聞にはいろいろな種類のものがあるということまた、同じ種類の新聞でも新聞社によってさまざまなちがいがみられるということなどいろいろなことがわかった。そして、どの新聞も、わかりやすく興味深い新聞にするために、いろいろな工夫をしていることがわかった。どの新聞が一番読みやすいかというようなことはいえないが、結論として、いろいろな新聞を読んでみるのがよいと思う。

文献に載っていた佐木隆三さん(氏)のエピソードの中にこんなものがあった。「暴力団の抗争で“組長”が射殺されたという。暴力団の組長といえば、外車を乗り回す姿を想像しがちだが、別の新聞を読むと“組長を名乗っても組員はおらず、近所の病院に通ってリハビリ中”とある。すると、にわかに組長に興味がわくのだ」と。

しかし、多くの場合どの新聞を読んでもだいたい同じ内容のようだ。これは、事件を速報するため、警察発表に頼るからだそうだ。

だから、新聞だけでなくテレビのワイドショーや週刊誌を読むのもいいと思う。そうすれば、視野が広がり、一つの新聞を読んだだけではわからなかった新しい発見があるかもしれない。

## Ⅴ　反省・感想

面積をはかるなどの作業は大変だったが、いろいろな新聞を読むことができ、良い経験になったと思う。記事の内容についてをもっとくわしく調べたかったが、できなかったのが残念だった。今回の自由研究は、夏休みの最後の方でまとめてやってしまったという感じなので、少し内容のうすいものになってしまった。来年は、もっと計画よく研究をすすめていくようにしたい。

## Ⅵ　参考文献


・図説　日本のマス・コミュニケーション　1987年出版
山本　明　編
藤竹　暁　編
出版社　ＮＨＫブックス

・新聞をどう読むか　1986年出版
現代新書編集部編
出版社　講談社現代新書